

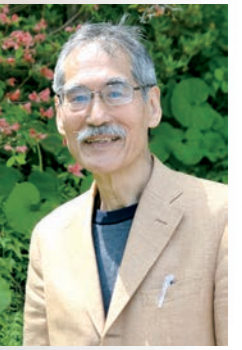
遠野文化研究センターだより とおのじん -其の1-

遠野人

このコーナーは遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただくために、今月から毎月お知らせするものです。第1回目は皆さんの「遠野人度」をはかるテストです。

★今月の筆者 **木瀬 公二**

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元盛岡総局長。08年に遠野部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



よかった」とも言っておりました。遠野の水も空気も、六角牛山も上郷小学校の図書室も、すべてが彼女の血となり肉となり、あの作品になったのです。「遠野が私をつくり、あの作品を作ったのだ」と言ったのは本心に違いありません。

遠野はやはり、自慢のまちなのです。それは私のような移住者も同じです。遠野人だと思っています。でも少し、元気がないようにも思えます。どこに原因があるのか。どうしたらいいのか。

遠野文化研究センターは遠野のかつての暮らしや街並みや食事など、先人たちが残した足跡を読み解き、そこから手掛かりを見つけようとしています。まずは市民の皆さんと共に、遠野とはどんなところで、遠野人はどう生きてきたのかを考えてみたいと思います。

左に掲げた表は「遠野人度テスト」です。昔、テレビ番組でやっていた物まねです。さあ、始めてください。的外れだったり、これが足りないというものがあれば遠野文化研究センターに教えてください。連絡先はこのページ一番下にあります。そして、どんな結果になったかも教えてください。年代別にまとめ、分析すれば何かが見えてくるかも知れません。

手探りですがこのページを、市民の皆さんとともに、遠野の町づくりを考える一歩にしていきたいと思っています。

★講座のお知らせ

幕末の快男児！江田大之進 -「遠野夜話」から-

天下の秀才、抜刀騒ぎ、勤王の志士との交流。幕末の遠野を駆け抜けた武士・江田大之進。彼の豪快エピソードを孫の台湾人類学者・伊能嘉矩が記した『遠野夜話』から紹介します。

■日時 6月23日(土)10時~12時 ■場所 遠野市立図書館

■講師 市史編さん委員会委員長 大橋 進氏 **無料!**

■申込 開催日の前日までに電話にて受付

遠野人度テスト

あてはまるものに☑してください。

- 『遠野物語』は名著だ。
- しかし(最後まで)読んだことはない。
- 著者の柳田國男は偉い人だ。
- しかし佐々木喜善が話さなければ書けなかったのだから、喜善の方が偉いと思う。
- 遠野にはいろいろな神様がいます。
- お盆にはご先祖様の魂は帰ってくる。
- ザシキワラシに会った(会ったという人の話を聞いた)ことがある。
- キツネやタヌキに化かされた(化かされたという話を聞いた)ことがある。
- 郷土芸能をやっている・やったことがある(親族の中にそういう人がいる)。
- 都会で暮らしたいと思ったことがある。

- 10個 縄文的遠野人→生粋の遠野人
- 7~9個 純正遠野人→まさに遠野人
- 4~6個 渡来系遠野人→移住者だが遠野人化
- 1~3個 現代遠野人→普通の遠野人
- 0個 新生遠野人→遠野における新人類

私たちは遠野人です。親に頼んだわけではありませんが、遠野に生まれ、遠野の空気を吸い、遠野の水を飲み、遠野のコメを食べ、遠野の大地を駆け回り、育ちました。一度くらい「都会に生まれたかった」と思ったこともあるでしょう。「おらおらでひとりいぐも」で芥川賞を受賞した若竹千佐子さんも、昨年末に市立図書館で行われた講演で「京都や奈良に生まれたかった」と言っていました。でもそのあとに「遠野に生まれて

★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

Vol. 3

我ら、地域おこし隊!

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介

「地域の魅力を、地域主導で発信する」
魅力発信プロジェクト 富川岳さん

遠野に来る前はどんなことを
していましたか?

大学を卒業後、東京都内の広告代理店に就職し、7年間営業・プロデューサーとして大手企業のデジタルプロモーションを担当していました。いつかは地方に入って、その場所で埋もれてるものを顕在化したり、文化を繋いでいくことをしたいなど、ずっと思っていて、「そろそろ地域に入って本

格的に活動しようかなと考えていた時に、この取り組みが始まると聞いて遠野に来ました。

遠野に来てからどんな活動を
してきましたか?

「地域のプロデューサー」として移住促進施策の一環で冊子を作ったり、遠野市宮守町の農事組合の人のガイドブックやウェブサイト制作などに携わらせてもらいま



平成28年から市と「ネクストコモンズ」が手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

した。広報や広告以外に力を入れているのは、文化や歴史を切り口に、地域の新しい知り方を提案する「TONO」 というプロジェクトです。今は、勉強会「おもしろTONO学」を毎月企画しています。遠野の深い文化を市民のみなさんと一緒に学びながら、新しいシリーズの仕組みを作ろうとしています。

情報発信プロジェクトとして、今後の目標や取り組みたいことを教えてください。

「一緒に活動していく人を増やしていきたい」という大きな目標があります。地域のプロデューサーをしていくなかで、文章を書く人、写真を撮る人、映像を撮る人、デザインをする人、イベントを運営する人など、いろいろな職能を持つ人と一緒に制作や運営をしていくことになりそうです。これから遠野で何かをつくるときに、地域の中でそういった仕事ができる人を増やして、魅力を発見・発信できる循環を生み出していきたいと思っています。



1



2

1_昨年秋から毎月開催している市民向け勉強会では、文化や歴史を学ぶフィールドワークを企画。市内からの参加者からも「初めて知った」という声があがる 2_移住促進施策の一環で制作した冊子「THE TONO BOOK」。県外の施設を直接周り、配布した 3_市内で事業者から広報/広告に関する相談を受けることも多い。

イベント 6月に企画しているイベントです
お気軽にお問い合わせください

遠野の文化を通じて
地域を「学ぶ・知る・おもしろがる」取り組み

**第8回 おもしろTONO学
山の神に会いたくて2018**
~山に生きる神・人間に迫る~

- 日時: 6月24日(日)9時~15時半
※昼食はご持参ください。
- 場所: ネクストコモンズ事務所
- 住所: 遠野市中央通り5-32 2階
- 参加費: 市内在住の方 1,500円
市外在住の方 2,500円
- 問い合わせ
富川 ☎:080-5451-0290
メール:gaku@tomikawaya.com

レポート 5月の活動のトピックをお伝えします

▼新庁舎の近くに「遠野醸造 TAPROOM」がオープン!

遠野産ホップを使った自家製クラフトビールなど、数種類の味を楽しめるクラフトビール醸造所&パブがオープン。ビールを切り口に、地域のコミュニケーションの促進や、ホップ生産者との連携などに取り組んでいます。



▼コモンズ・スペースがリニューアルオープン

ローカルベンチャー事業の拠点、一日市通りの施設1階が、多目的利用の場所としてリニューアルオープン。毎週日曜日から水曜日は月替わりランチの提供もしています。



▼小友町にて「小友ようかん」の試験販売を開始

産直ともちゃんをはじめ、小友町有志の人たちとローカルベンチャー事業の橋本さんが協力し、昭和45年頃まで小友町で販売されていた銘品「小友ようかん」の復活に取り組んでいます。十数回の試作を繰り返し、5月より産直ともちゃんにて試験的に販売されています。

